ベジフル SAGA （2026 年 10 月号）　～ 病害虫防除 ～

10 月は温州ミカンの収穫が本格化する時期ですが、近年は温暖化の影響で遅くまで害虫の発生が続いており、収穫間近の果実が被害を受けたという話もよく耳にします。収穫が始まると収穫作業に追われがちですが、いつも以上に園内の状況に気を配り、病害虫の発生が確認された園は直ちに防除を行いましょう。

また、モモやブドウ、ナシといった落葉果樹では収穫後の防除時期となります。越冬する病害虫の密度を減らし、来年の被害を防止しましょう。

「果樹全般」

●果樹カメムシ類

果樹カメムシ類は越冬世代の飛来が一時期多かったものの、次世代の発生は現在落ち着いています。ただし、飛来の有無や飛来量は地域や園地によって異なりますので、引き続き園内を見回り、飛来が認められた場合は直ちに薬剤を散布してください。

また、近年、温暖化に伴いツヤアオカメムシの発生密度が高くなっています。ツヤアオカメムシは常緑樹の樹冠内で越冬します。そのため、常緑樹であるカンキツに飛来すると定着し、果実を収穫するまで加害します。気温が低下し、灯火にカメムシ類が集まらなくなっても園内には定着している可能性があるため、必ず園内の確認を定期的に行ってください。

「露地カンキツ」

●褐色腐敗病

本病が問題となる園では、台風の直前、強風雨時、または本病の発生極初期に収穫前日まで使用できるランマンフロアブル 2,000 倍、レーバスフロアブル 2,000 倍、アリエッティ水和剤 400 倍のいずれかを散布してください。なお、アリエッティ水和剤は高温時に散布すると日焼け果の発生を助長することがあるため、早朝の涼しい時間帯に散布してください。

●果実腐敗（緑かび病等）対策

樹上や地面の腐敗果は重要な伝染源であるため、早急に取り除き園外に持ち出して適切に処分してください。

薬剤は、収穫 7 ～10 日前にベンレート水和剤 4,000 倍とベルクートフロアブル 2,000 倍を混用して散布してください。なお、ベンレート水和剤とベルクートフロアブルは、それぞ

れを単用で散布すると効果が劣るため、必ず混用散布としてください。

果実腐敗の原因となる病原菌は、主に傷口から感染するため、収穫の際は果実に傷をつけないよう丁寧に取り扱ってください。

●アザミウマ類（ハナアザミウマ類）

本年のように夏季以降に高温・乾燥条件が続く年は、ハナアザミウマ類等の密度が高くなり、カンキツ園に飛来して着色期以降の果実を加害するおそれがあります。被害果は、まず、果皮が白色かすり状に脱色した後、褐変して商品性の低下・腐敗の原因になります（図参照）。そのため、園内の被害の状況を必ず観察し、被害が確認された場合は早急に薬剤を散布してください。被害は、果実と果実が接している部分や、果実と葉が接している部分に多いため、このような部位を中心に観察してください。特に、園内外に増殖源となるセイタカアワダチソウ等のキク科植物やマメ科植物の花が多い場合は飛来リスクが高いため、園内をこまめに観察してください。

薬剤は、スピノエースフロアブル 4,000 倍（収穫 7 日前まで）、ハチハチフロアブル 2,000 倍（収穫前日まで）等を収穫前日数に注意して散布してください。



図　ハナアザミウマ類による被害果

●ミカンハダニ、ミカンサビダニ

梅雨明け以降の高温・乾燥によりミカンハダニの発生が多くなっています。発生状況を確認して低密度時（寄生葉率 30%未満、または 1 葉あたりの雌成虫数が 0.5～1 頭）から散布してください。なお、目視での確認が難しい場合、白い紙で葉を挟み込むと押しつぶされたハダニが紙に付着するため確認しやすくなります。

使用する薬剤は、収穫前使用日数を確認した上で選択します。薬剤感受性の低下を防ぐため、同系統の薬剤の使用は年 1 回までとし、昨年使用した薬剤は使用しないでください。

また、ミカンサビダニの被害が確認された場合は早急に薬剤を散布してください。ミカンハダニとミカンサビダニに対する薬剤は表 1 のとおりです。

表１　ミカンハダニ、ミカンサビダニに対する薬剤の例

対象	IRAC	薬剤名	希釈倍率	収穫前日数
ミカンハダニ	6	コロマイト水和剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで
	20B	カネマイトフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前まで
	25A	スターマイトフロアブル	2,000 倍	収穫 7 日前まで
	25B	ダニコングフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで
	33	ダニオーテフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで
ミカンハダニ＋ミカンサビダニ	23	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで
	23	ダニエモンフロアブル	4,000 倍	収穫 7 日前まで
	25B＋21A	ダブルフェースフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで
	25A＋21A	スターマイトプラスフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前まで
	6＋10B	メビウスフロアブル	2,000 倍	みかんは収穫 7 日前まで、カンキツ（みかんを除く）は収穫 14 日前まで
ミカンサビダニ	20D	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫 7 日前まで
	21A	サンマイト水和剤	3,000 倍	収穫 3 日前まで

※佐賀県総合防除計画を参考とした。

●ウスカワマイマイ・チャコウラナメクジ

被害を回避するため、両種の発生初期にスラゴの株元配置や IC ボルドー66D　100 倍（クレフノン 200 倍加用、汚れに注意）を樹体に散布してください。

すでに両種が樹上に登っている場合や果実の汚れが気になる場合は、マイキラーL 200 倍（収穫 30 日前まで、３回以内）を樹体に散布してください。なお、本剤は即効性はありますが、IC ボルドー66D のような長期間の効果は期待できません。そのため、散布後に樹上で再確認されたり、被害が増えたりした場合は再散布してください。

「不知火」

●汚れ果症

10 月上～中旬に、ジマンダイセン水和剤（またはペンコゼブ水和剤）600 倍を散布してください。ただし、ジマンダイセン水和剤等の成分であるマンゼブを含む農薬は、総使用回数が４回以内であり、収穫前使用日数が 90 日前までなので、農薬の散布履歴や収穫前日数を確認の上散布してください。

「ナシ」

●黒星病

10～11 月は、翌年春の発生源となる鱗片への感染を防ぐ重要な時期です。デランフロアブル 1,000 倍、キノンドーフロアブル 1,000 倍、オーソサイド水和剤 80 1,000 倍等を 10～15

日間隔で２～３回、ムラのないよう丁寧に散布してください。なお、防除の終了時期の目安は樹上に残っている葉が 2 割以下になった時点とします。

「ブドウ」

●べと病

本病による早期落葉を防ぐとともに、翌年の伝染源を減らすため、収穫後の防除が重要です。収穫終了後に本病の対策を行っていない園では、早急にアビオンＥ　1,000 倍を加用したボルドー液（ＩＣボルドー48Ｑ、66Ｄ）50 倍を散布してください。

●ブドウトラカミキリ

10 月上～中旬頃、卵からふ化した幼虫が枝に食入します。モスピラン顆粒水溶剤 2,000 倍を散布して幼虫の食入を防いでください。なお、昨年まではこの時期に防除が間に合わなかった場合の対策として、11 月上旬までにプラテンを加用したトラサイド A 乳剤による防除を紹介していましたが、トラサイド A 乳剤が 2026 年 9 月に登録失効したため同時期の防除が難しくなっています。本種が発生する園地では必ず 10 月の防除を実施してください。

モモ・スモモ

●せん孔細菌病（モモ）、黒斑病（スモモ）

秋季の感染を防ぐため、10 月上旬頃まで薬剤を散布してください。モモのせん孔細菌病にはＩＣボルドー66Ｄ　50 倍またはＩＣボルドー412　30 倍、スモモの黒斑病にはＩＣボルドー412　30 倍を散布してください。両病害とも台風等の強風雨で感染が助長されるため、台風が予想される場合は、襲来前に必ず薬剤を散布してください。